

実力養成編

練習1

子供がテレビゲームをする理由について書かれた文章である。

対比(子供と大人)に注目する。

緊張を避けるために、大人はカラオケに行き、子供はテレビゲームをする。

- 1: 子供の友達同士でカラオケに行けないからではない。
- 2: 正解
- 3: 大人もカラオケに行くべきではないとは書かれていない。
- 4: 子供がカラオケに行くとは書かれていない。

練習2

部活動などスポーツ活動の管理について書かれた文章である。

対比(一般的な考え「部活動の事故は管理者だけに責任がある」と、筆者の考え「完璧に観察し、適切な判断を…おこなうことは不可能に近い」)に注目する。筆者は、今の状況では安全管理が十分にできないと書いている。

対比(一般的な考え「部活動の事故は管理者だけに責任がある」と、筆者の考え「完璧に観察し、適切な判断を…おこなうことは不可能に近い」)に注目する。筆者は、今の状況では安全管理が十分にできないと書いている。

- 1: 指導者が事故にもっと責任を持つべきだとは書かれていない。
- 2: 部員に報告する義務があるとは書かれていない。
- 3: 事故の責任が部員本人にあるとは書かれていない。現場の指導者や、施設管理者に責任があるかのように思われていると書かれている。
- 4: 正解

練習3

ボランティア活動に向いている人について書かれた文章である。

対比(一般的なイメージのボランティアと筆者の考えるボランティア)に注目する。

一般的なボランティアのイメージは、人の嫌がる仕事を引き受けたり、お年寄りやハンディキャップをもつ人を的確に世話したりする、正義感が強いやさしい人。

筆者の考えるボランティアは、責任を持って活動できる人。

- 1: 正解
- 2: お年寄りやハンディキャップを持つ人を的確に世話する能力は、徐々に身につけていくものである。
- 3: 責任感が必要である。
- 4: 「よいことをする!」という気持ちが強くない人のほうが、自然体でボランティアができる。

練習4

近代社会における自由について書かれた文章である。

対比(近代以前の社会と近代社会)に注目する。近代以前では、職業の選択肢がほとんどなく、一生同じ地域で暮らすことが多かった。それに対し、近代では自由が大切にされ、職業選択も移動も自由になり、人やモノや情報が行き交うようになったことが書かれている。

対比(近代以前の社会と近代社会)に注目する。近代以前では、職業の選択肢がほとんどなく、一生同じ地域で暮らすことが多かった。それに対し、近代では自由が大切にされ、職業選択も移動も自由になり、人やモノや情報が行き交うようになったことが書かれている。

- 1: 筆者は、移動の自由だけについて言いたいのではない。
- 2: 正解
- 3: 近代社会が自由という理念を大切にしている理由は、それ以前に自由がなかったためだ、とは書かれていない。
- 4: 人も情報も多すぎて社会が不安定になるとは書かれていない。

練習5

創造的な編集について書かれた文章である。

対比(知名度の高い執筆者ばかり適当にそろえて一冊の雑誌をつくる編集と、創造的編集)に注目する。前者は、失敗は少ないが、創る喜びが少ない。

対比(知名度の高い執筆者ばかり適当にそろえて一冊の雑誌をつくる編集と、創造的編集)に注目する。前者は、失敗は少ないが、創る喜びが少ない。

創造的編集とは、「固いつぼみを見つけ出して、これにあたたかい春の風を送り、花に育てる編集」のこと(創造的編集=まだ発見されていない才能を見つけ出し、励ましたりして、りっぱな書き手に育てることの比喩)。

創造的編集とは、「固いつぼみを見つけ出して、これにあたたかい春の風を送り、花に育てる編集」のこと(創造的編集=まだ発見されていない才能を見つけ出し、励ましたりして、りっぱな書き手に育てることの比喩)。

- 1: 正解
- 2: 雑誌をつくること自体が創造的で芸術的な仕事だとは書かれていない。
- 3: 時間をかけることではなく、まだ知られていない才能を見つけ育てることが創造的編集である。
- 4: 雑誌をつくる編集者の才能については書かれていない。

練習6

視野について書かれた文章である。

言い換えに注目する。

「視野に入っているにも注意していなければ見えない」=「網膜の上には映っている、意識のアンテナが働いていない」

- 1: 老人が視野に入っていないからではない。(意識していないからである。)
- 2: 若者のことは一つの例でしかなく、この文章のテーマではない。
- 3: 正解
- 4: 意識のアンテナをよく働かせなければならぬとは書かれていない。

練習7

報道には主観が含まれることについて書かれた文章である。

言い換えに注目する。「感情や好き嫌い」=主観

何を報道するか、何をニュースにするかを定める段階で客観的でなくなる。つまり、主観が入っている。

1: 正解

2: ニュースの価値は、客観的な基準やデータ、つまり客観的な要素だけで決められているのはない。

3: 好き嫌いに気をつけるべきだとは書かれていない。

4: 主観的に報道すればよいという提案ではない。

練習8

人間の自由について書かれた文章である。

言い換えに注目する。「自由」=「自分勝手」

自分勝手に振る舞おうとすると、他人の勝手と衝突する。

1: 自分勝手な行動はやめなければならないとは書かれていない。

2: 完全に自由になることを好むわけでもないとは書かれていない。

3: 衝突の重要性を主張しているのではない。

4: 正解

練習9

「できる人」と思わせるにはどうすればいいかについて書かれた文章である。

言い換えに注目する。「できる人と思わせる」=「できる人に見える」

自分の長所を前面に出せば、「できる人に見える」のである。

1: 欠点が目立たないようにするとは書かれていない。

2: 自分の短所を理解してもらおうとは書かれていない。

3: 準備することは必要だが、欠点を補う必要があるとは書かれていない。

4: 正解

練習10

人生の好調、不調について書かれた文章である。

比喩に注目する。

晴れの日=好調の時、雨の日=不調の時、傘=不調の時のための用意

好調の時はつづくと、不調の時のことを忘れがちである。

1: 傘の話は比喩であり、この文章のテーマではない。

2: 正解

3: 傘の話は比喩であり、この文章のテーマではない。

4: 好調なときも油断せず、用意をする必要がある。

練習11

走るスピードを上げることについて書かれた文章である。

比喩に注目する。

車=走る人、エンジン=生まれ持った質(体質)

タイヤを履き替えたり、運転テクニックを上達させたりすること=さまざまな工夫
工夫をすることで、走るスピードを上げることができる。

1: 車の性能は比喩で、この文章のテーマではない。

2: 足の速さは生まれながらにしてかなりの部分まで決まっているが、スピードアップさせる方法があることを主張している。

3: 車のスピードは比喩で、この文章のテーマではない。

4: 正解

練習12

人生の喜びや悲しみについて書かれた文章である。

比喩に注目する。

鷹が山鳩を食べたという一つのことに対して、ある人は喜び、ある人は泣く=ある一つの事実について、立場により見方が違う。

1: 「住んでいるところ」は比喩で、この文章のテーマではない。

2: しかたがないとは書かれていない。この世で起きることをどう見るかが人により違うと書かれている。

3: 起きたことをどうするかではなく、どう見るかについて書かれている。

4: 正解

練習13

身の丈以上の生活を求めることに本当の幸福があるのかについて書かれた文章である。

疑問提示文に注目する。疑問提示文は「果たしてそこに本当の幸福があるのでしょうか。」である。

「そこ」=今の日本人が身の丈(自分の財力・能力)以上の生活を求めていること

疑問提示文の答えは、「身の丈に合わない生活には、きっと大きな落とし穴がある。」である。

1: 現代の日本人は幸福であるとは書かれていない。疑問に思っている。

2: 少し前の日本人があまり幸福ではなかったとは書かれていない。幸せだったとある。

3: 正解

4: 筆者の子供の頃の話は、今の日本人との違いを対比するためだけに書かれている。

練習 14

文章を書くことについて書かれた文章である。

疑問提示文に注目する。疑問提示文は「みなさんは、そもそも何のために文章を書くのでしょうか。」である。その答えは、「自分を表現し、他者と関わりながら生きていくため」、つまり、だれかにきちんと伝え、社会に働きかけて、ほかの人々と共に生きていくためである。

1: よく考えることが大切だとは書かれていない。

2: 正解

3: 教科書や参考書の知識と書くことが上手になることとどう関係するかは書かれていない。

4: 書くことで成長するとは書かれていない。また、内面を見つめることだけでなく、社会に向けて行動することにもなると書かれている。

練習 15

日本人の家族関係について書かれた文章である。

疑問提示文に注目する。疑問提示文は、「昔は強かった家族の人間関係が、だんだん薄く、冷たくなったのだ」「本当にそうなのだろうか。」である。その答えとして、「家族がいちばん大切だ」という考えの人が30年で倍になった、つまり、家族関係が冷たくなったのではないということが読みと取れる。一方で、「職場の同僚、隣近所の人、親せきとのつきあいについて、相談したり助けあったりできる関係が望ましい」と答える人の割合は減少した。

1: 正解

2: 職場や地域、親せきとの関係は薄くなっている。

3: 職場や地域、親せきとの関係は強まっていない。家族を大切に思う人の割合は増えていないとは書かれていない。

4: 家族関係を重視する人の割合は低下しているのではなく、高まっている。

練習 16

自分の感情を表に出すということについて書かれた文章である。

疑問提示文に注目する。疑問提示文は、「喜んでいるのか悲しんでいるのか、さっぱりわからない人の場合はどうだろうか。」で、その答えは、「感情をうまく表にあらわせない人は、対人関係が悪くなりやすい」である。

1: 仲間はずれにされたりいじめられたりするのとは、自分の感情をうまくあらわせない人であって、

相手の感情がわからない人ではない。

2: 正解

3: 目の前にいる人が自分の気持ちに共感してくれないのではなく、目の前にいる人に自分の気持ちを出さないと、相手は共感できない。

4: 感情を表に出さない人のほうが人間関係で問題が起きやすい。

練習 17

美術展の鑑賞のしかたについて書かれた文章である。

主張表現に注目する。「まず入り口の略歴とか作品の解説を見る前に作品そのものを観てまわり、自分が好きな作品があったら解説を読み、最後に略歴などをみて理解を深めるという見方をしてみてはどうでしょうか」が筆者の主張の部分である。

1: 作家の紹介や解説が、旅行の観光コースでただ見ていた絵の理解に役に立つとは書かれていない。

2: 正解

3: 作家の紹介や解説などを見る必要はないとは書かれていない。

4: 先に作品を観るのは入り口の解説の前が混んでいるからではない。

練習 18

速読法について書かれた文章である。

主張表現に注目する。「～と思う」「～べきだ」のような主張表現はないが、「あまり評価していません」「浅いものにならざるを得ません」は、速読法に対する筆者の評価が低いことを表している。「評価する」は、その価値を高く認めるという意味で、「評価しない」はその価値が高くないという意味である。

対比(読書と音楽)にも注目する。音楽があるテンポ(速度)で演奏されるのと同じように、読書も適切なスピードで行われるべきであると述べている。

1: 音楽の演奏のスピードが言いたいことではなく、読書について述べている。

2: スピードが遅すぎるのではなく、速すぎると頭に入らない。

3: 速読を音楽とともに行うことについて書かれているのではない。

4: 正解

練習 19

図書館のサービスについて書かれた文章である。

主張表現に注目する。主張表現は、「これ(=ベストセラーだけを一館で十冊近くも買いこんだり、賞味期限が切れたら抽選で来館者にあげてしまったりすること)がみんなの税金で支える図書館の

理想的サービスなのだろうか(反語)である。「理想的サービスではない」ということが筆者の本当に言いたいことである。

- 1: 予約待ちが長くなりすぎているという今の状況を批判しているのではなく、図書館の予約待ちが長くなりすぎないように本をたくさん買っていることを批判している。
- 2: 図書館サービスに対し感謝していることは単なる前置きで、最も言いたいことではない。
- 3: 正解
- 4: 図書館に何冊もある本を抽選で来館者にあげることにいいサービスであるとは書かれていない。

練習 20

働く理由について書かれた文章である。

主張表現に注目する。

第3段落が筆者の主張である。「もしお金があったら、人は本当に働くのをやめるでしょうか。」が疑問提示文になる。「案外、そうでもないのではないのでしょうか(=そうではないだろう)」、つまり、働くのをやめないだろうと主張している。

- 1: 正解
- 2: 「お金さえあれば働かなくていいような気がします」とあるが、その後「しかし」に続けて、お金があっても、結局、働くのをやめないのではないかと書いている。
- 3: 子供がいる人が子供のために働くのをやめないと主張しているのではない。人はお金があったとしても働くのをやめないだろうというのが筆者の最も言いたいことである。
- 4: 夢の実現は、働く理由にはなるが、お金があれば夢の実現をしようとするとは書かれていない。

練習 21

便利さを取り入れることについて書かれた文章である。

指示語を含む文の「しかし」とその前の「あたかも「よい面」しかないように思えます」に注目する。

①それ=よい面

- 3: 正解

練習 22

芸術作品を鑑賞することについて書かれた文章である。

①そういう面=あたかも自分が何かを表現したような気分になれる面。

- 3: 正解

練習 23

文句を言うことについて書かれた文章である。

①そんな損得勘定=文句を言うことで、言った人自身が損をしてしまうかどうか考えること(言ったらもつと状況が悪くなる。職場で疎んじられて、クビを切られるかもしれない)

- 1: 正解

練習 24

大学で学ぶことについて書かれた文章である。

①そういうこと=方法論(=対象の取り扱い方)

大学で教えるべきなのは専門の知識ではなく対象の取り扱い方だというのが筆者の主張。

- 1: 包丁の研ぎ方、選び方は方法論を説明するための比喩。
- 2: 正解
- 3: 女房はユーモアを込めて出した、対象の例。
- 4: 専門の知識ではなく、対象の取り扱い方を教えるべき。

練習 25

「それでいいよ」という言葉について書かれた文章である。

①なかなか気づかないの主語は「それでいいよ」と言われたほう=いいかどうか聞いた人

- 2: 正解

練習 26

八つ子が生まれたことについて書かれた文章である。

「ある」を含む文の前を見ると、「命はどう数えるのだろう」とあり、命について書かれている。

①「命はどう数えるのだろう。[命]草花にもあるから[命の数え方は]人や体ではなく、個も違う。」

- 3: 正解

練習 27

数に強くなることについて書かれた文章である。

下線部の前を見ると、「数に強くなると、いろいろ面白くて、実になることが多くなる。」と書かれている。「たとえば」以下は面白くて実になることの例である。

[面白くて、実になることは]①もつとある。

- 4: 正解

練習 28

インタビューについて書かれた文章である。

下線部の「それ」が何を指すかを追っていく。それ=切ったり、貼ったり、並べ替えたり、ときには修正したりという作業=インタビュー内容に手を加える作業

- 1: 正解
- 2: 相手の話を忠実に再現しようとするのではなく、「加工」が行われる。
- 3: 聞かなかったことも新たに加えられているとは書かれていない。
- 4: さまざまな視点から相手をとらえようとしているとは書かれていない。

練習 29

「行間を読む」ことについて書かれた文章である。

下線部の文を見てから、後の文を見る。第3段落「けれど」の後が「①行間を読む」の説明。手紙に書いてある文字どおりのことをする人は、行間を読んでいない。

- 1: 正解
- 2: がんばれと言うのは文字どおりに行動していて、行間を読んでいない人。
- 3: がんばれという内容の応援の返事を書くのは、行間を読んでいない人。
- 4: 手紙を書いた人が手伝いに来てほしいと頼んでいる。

練習 30

いいと思う写真について書かれた文章である。

下線部の文を見る。「いいな」と思う写真について書かれているのは、第3段落である。筆者が「いいな」と思う写真は、「そこに写っている世界に入ってみたくなるような」、「われを忘れて写真と話し込んでいるような、画面の中からいくつもの言葉が聞こえてくるような写真」である。

- 1: 写した人と見ている人がいっしょに話をしているのではない。
- 2: 写した人と見ている人の気持ちがぴったり一つに重なるとは書かれていない。
- 3: 見る人の気持ちが知らず知らずのうちに楽しくなってくるとは書かれていない。
- 4: 正解

練習 31

地域の図書館について書かれた文章である。

下線部の文を見る。肩肘張った=何かをしようと強く思って、力が入った状態
下線部の文の前後を見ると、後に、「散歩に行くのではなく、勉強や調査に出かけていくということになりがちである。」と書かれている。つまり、勉強や調査に出かけていくというはつきりした目的のことである。

- 1: 散歩の途中に立ち寄って新聞や本を拾い読みするのは、図書館の気軽な利用のしかたであって、肩肘張った目的ではない。
- 2: 図書館に親しみをもち、読書生活が日常化するよう努めるのは、図書館の運営方針である。
- 3: 「地域の公共図書館設置数はまだまだ十分ではない」とあるが、それを増やそうとするとは書かれていない。
- 4: 正解

練習 32

ペットと人との関係について書かれた文章である。

下線部の文を見る。「動物たちは生きるために、いくつかのことを人に頼っているが、①救われているのは決して彼らだけではない。」の「彼ら」とは動物たちを指している。動物たちだけでなく、人も救われている。

- 1: 正解
- 2: 犬や猫が人間や動物を救うような本当の癒しの力を持つようになったのではなく、人間が犬や猫に癒しを求めようになった。
- 3: ペットを飼っている人の周りにはいる人々のことは書かれていない。
- 4: 人間や犬や猫が自由になりたいと思っていると書かれていない。

練習 33

今の子どもが夢や希望を持ちにくいことについて書かれた文章である。

下線部の文を見て、前の文から理由を探す。理由を示す表現は本文にはない。対比(昔と今)に注目する。昔は、子どもは希望を持っていた。今、「情報化が進んだ社会の若者は、かつての若者以上に、希望の実現が困難であることを直観的に知っている」。つまり情報化が進んだこと(=情報が増えたこと)が原因である。

- 1: 正解
- 2: 今の子どもは、素直に希望を語らないとは書かれていない。
- 3: 特別な才能を持つ子どもが減ったとは書かれていない。
- 4: 選択の可能性が増えると、希望を持ちにくくなるとは書かれていない。

練習 34

転職に向いているかどうかをチェックする方法について書かれた文章である。

下線部の文を見る。理由を示す表現は本文にはない。言い換えに注目する。

新たな空間=スポーツジムや習い事などの新しい環境
身を投じる=始める。

一人でスポーツジムに行ったり、新しい事を始めてみたりして、新しい環境で居心地の悪い思いをする。転職することも一人で新しい環境に行くことである。だから、「事前に新しい事などを一人で始めてみると、自分が新しい環境(=新しい職場)のもとでうまく対応できるかどうか分かる」のである。

- 1: 正解
- 2: 「新しい空間」は仕事の内容ではなく、職場の環境を表す。
- 3: 今の仕事ではなく、新しい環境でストレスを感じるかどうかを試してみる。
- 4: 今の職場ではなく、新しい職場に行っても対応できるかどうか分かる。

練習 35

声が伝えるものについて書かれた文章である。

文章全体から理由を示す表現を探す。第2段落に「私の声にあらわれた態度に、許しがたいものを感じたのでしょう。」「私の声の出し方と、その声から伝わったものが、父を不快にさせたのです。」

の「のでしょう」「のです」は前の文「父からひどく怒られました。」の理由を表す。

つまり、筆者の声にあらわれた態度、声の出し方、声から伝わったものが、父を不快にさせたのである。

- 1: 父が怒った理由は、映画が良かったかどうかについての意見ではなく、声に表れた不誠実な態度である。
- 2: 声が小さくて、父にははっきり聞こえなかったとは書かれていない。
- 3: 父が怒った理由は、すぐに答えなかったことではなく、声にあらわれた態度である。
- 4: 正解

練習 36

仕事と学校の勉強との関係について書かれた文章である。

下線部の文を見て、前後の文から理由を探す。理由を示す表現は本文にはない。対比(仕事と勉強)に注目する。仕事では相手があり、手順があり、途中で評価があり、最後に報酬や感謝を受け取る。勉強でも、先生などの相手があり、勉強の手順があり、先生に途中経過をチェックしてもらうという評価があり、最後に成績をもらう。

このように、仕事と勉強は流れがほとんど同じである。

- 1: 仕事では知識だけでなく、手順を身につけていることも重要である。
- 2: 正解
- 3: 努力ではなく、流れが同じであることが重要である。
- 4: 学校の成績が就職するときチェックされるかどうかは書かれていない。

練習 37

差別について書かれた文章である。

文章全体から理由を示す表現を探す。理由を示す表現は本文にはない。対比(差別されるほうが劣っているというかんがえかたと、差別するほうに劣ったところがあるというかんがえかた)に注目する。筆者は、差別をするほうに劣等感があり、それを忘れるために、強いものの仲間に入って差別をすると述べている。

- 1: つくり話をかんがえ出すのは、差別するほうである。
- 2: 相手が劣っているわけではない。差別するほうに劣ったところがある。
- 3: みんなではなく、差別するほうだけがかんがえている。
- 4: 正解

練習 38

入れ歯が合う人と合わない人の違いについて書かれた文章である。

文章全体から理由を示す表現を探す。「別に口蓋の形状に違いがあるからではないんです。マインドセットの問題なんです。」の「からではないんです」「んです」が入れ歯が合う人の理由を表す。「マインドセット」という言葉がわからなくても、その先の対比(入れ歯が合わない人と合う人)に注目する。入れ歯が合わない人は「自分のもともとの歯があったときの感覚が「自然」で、それと違うのは全部「不自然」だから厭だと思っている人」で、合う人は、「歯が抜けちゃった以上、歯があったときのことは忘れて、とりあえずご飯を食べられれば違和感があってもいい、「自分でなんとかしますから」という人である。このことから、自分でなんとか工夫することが理由である。

- 1: 入れ歯を入れる人の口の中の形に違いがあるからではないと書かれている。
- 2: 入れ歯を自分の口に合う形に直すのではなく、自分の口の中の筋肉や関節の使い方を工夫する。
- 3: 正解
- 4: ぴったり合う入れ歯を作れる歯科医に出会うことができたとは書かれていない。

練習 39

運動を続けるにはどうすればいいかについて書かれた文章である。

下線部がないので、問いと文章全体を読む。運動を続けられる仕組みは、意志の力に頼らないことである。本文中の例を見ると、「家の場所を最寄りの駅から歩いて15分かかるところに」するなど、つまり、そうしなければならない状況を作ることである。

- 1: 毎朝声を出して言うのは、意志の力に頼っていることであり、それは否定されている。
- 2: 計画ではなく、やらなければならない状況を作る。
- 3: 運動した内容と時間を手帳に書くことは、自分の意志の力にかかっているもので、仕組みにはなっていない。

4: 正解

練習40

「ことほぐ」という言葉について書かれた文章である。

下線部がないので、問いと文章全体を読む。「ことほぐ」という言葉の正しい使い方を本文で探す。

「ことほぐ」とは、言葉を告げて(相手に言葉を言って)祝うこと。言葉を相手に告げていなければ、

「ことほぐ」とは言えない。

- 1: 正解
- 2: 一人で酒を飲むという行動には、相手がいないので、言葉を告げられない。
- 3: 新しい服を着ることは、言葉を相手に告げる行動ではない。
- 4: 花を飾ることは、言葉を相手に告げる行動ではない。

練習41

友達について書かれた文章である。

下線部の文を見る。

①「そうした発想から解放されなければならない」の「そうした発想」とは、学校では「みんな仲良く」して、「いつも心が触れ合って、みんなで一つだ」という考え方(友だち幻想)を指す。この考え方に縛られない考え方の例を選ぶ。

- 1: クラスの仲間同士対立が起きないようにするのは、みんなが一つになるための行動である。
- 2: 一人で行動している子供を仲間に入れるようにするのは、みんなが一つになるための行動である。
- 3: 正解
- 4: 掃除など自分が任された仕事をするのはクラスのルールであり、ルールのことは書かれていない。

練習42

「つきましては/それに伴って」のない文では、「お願いします」「お知らせします」「ください」などの前を見る。

「以下ご注文内容をご確認ください。併せて発送予定日のご確認もお願いいたします。」

- 1: 正解
- 2: 発送はまだ完了していない。
- 3: 代金を支払ってほしいとは書かれていない。
- 4: 送り状番号は発送が完了してから通知される。

練習43

「さて」と「つきましては」の後を見る。

「尚」の後には補足説明がある。

「さて、来る3月15日、渋谷ハウス共用部分電気設備の定期点検を行います…」

(共用部分=皆で使う場所。入口やエレベーターなど)

「つきましては、下記の時間、共用部分が停電となり、エレベーターも停止いたします。」

「尚、この点検による各戸の停電はございません。」(各戸=それぞれの部屋)

- 1: 渋谷ハウス全体が停電するのではない。
- 2: 共用部分は停電する。
- 3: 正解
- 4: 共用部分は停電するが、自分の住んでいる部屋は停電しない。

練習44

「さて」の後を見る。

「さて、ご注文いただきました…が、…品切れの状態です。…申し訳ございません。」

- 1: 新商品については何も書かれていない。
- 2: 正解
- 3: 注文をもらったことが主要なお知らせではない。
- 4: 注文が取り消されたのではない。

練習45

太い字・大きい字に注目する。

「3/15」

「半額金券セール」

「*お買い上げいただいた金額の半分の額の金券を差し上げます。次回以降お使いになれます。」

小さい字には大事な注意が書いてある。

「尚、金券の有効期限は4月30日です。」

- 1: パンの値段が半分になるのではない。
- 2: パンの値段が半分になるのではない。4月30日は金券の有効期限。
- 3: 金券の有効期限は4月30日である。
- 4: 正解

練習46

選択肢にあるキーワード「予約」を本文中から探す。

「事前のご予約が必要です。」

「ステップ1 まずはご予約 前日までに電話かご来館で。」

「期間」を見る。太い字、大きい字に注目する。

「期間：10月11日～20日」

- 1：正解
- 2：お試し体験期間は11日からである。10日からは始められない。
- 3：予約は前日までにしなければならない。
- 4：15日から始めると、20日までに7日間体験できない。

練習47

選択肢のキーワードを探す → いつまでに「払う」？ どこで「払う」？

「下記利用停止予定日前日までに最寄りのコンビニエンスストアでお支払いいただきますよう、お願いいたします。」

「利用停止予定日」を見る。 = 3月31日

- 1：電話会社で支払うのではない。
- 2：正解
- 3：31日ではない。電話会社で支払うのではない。
- 4：31日ではない。

練習48

問いのキーワードを探す → 「日曜日」「午後3時」「子供」が病気の場合、どこに相談できる？

「新型インフルエンザ相談センター」は3月31日で終了しました。」

「…新型インフルエンザの相談は、最寄りの保健所(月～金、9時～17時、祝除く)で行っています。」

「医療機関の案内は、医療相談センター「ひまわり」☎03-329-6521(24時間)で、…でお受けします。」

- 1：「新型インフルエンザ相談センター」は3月31日で終了した。
- 2：最寄りの保健所は日曜日は開いていない。
- 3：正解
- 4：福祉保健局感染症対策課はこのお知らせについての問い合わせ場所である。

練習49

「実施方法」を見る。

「1. 非常ベルが鳴ったら、階段で建物外に出ること

エレベーターは使用しないこと

2. 退避場所(建物西側駐車場)で各所属部長のもとに集まること

部長は人数を確認し、防災訓練責任者に報告すること」

- 1：エレベーターを使ってはいけない。部長の指示を待つとは書かれていない。
- 2：10時になったら階段を降りるのではない。
- 3：正解
- 4：人数を数えて防災訓練責任者に報告するのは、部長である。

練習50

「●前日夜」「●当日朝」を見る。

「●前日夜

のりなどの海藻、きのこ類など消化の悪いもの、…は控えてください。

アルコールは飲まないでください。

水、お茶などの水分は取っても構いません。」

「●当日朝

朝から何も食べずに病院へおいでください。

水、お茶などの水分は取っても構いません。」

- 1：前日の夜、お酒を飲んではいけない。
- 2：前日の夜、海藻を食べてはいけない。
- 3：正解
- 4：当日の朝、何も食べてはいけない。

練習51

「○返品・交換方法」を見る。

「以下の「返品・交換シート」にご記入の上、商品とともにご返送ください。」

*商品が宅配便(着払い)でご返送ください。」

「・お支払い済みの場合」を見る。

「・お支払い済みの場合

返品をご希望のお客様は、返金先をご記入ください。」

- 1：商品と「返品・交換シート」は一緒に送る。宅配便は着払いで送る。
- 2：商品と「返品・交換シート」は一緒に送る。「返品・交換シート」に返品理由も書く。
- 3：「返品・交換シート」に銀行口座の情報を書く。着払いで送る。
- 4：正解

練習52

問いにある「12月12日」「現代美術」「若い日本人画家」というキーワードで探す。

「青田アート」

「今年、最も活躍した10人の若手による現代美術を紹介します。海外でも評価されている新進気鋭の日本人画家たちです。」

「12月20日まで」

- 1: 正解
2: 12月10日までなので、12日はやっていない。
3: 江戸時代の絵画で、現代美術ではない。
4: 彫刻であり、絵画ではない。

練習53

家族や親しい人に対する態度について書かれた文章である。

問1

下線部の前後を見ると、「そんな自分の行動」とは、投稿者の女性の行動で、自分の子育てについて反省をしている。振り返っていたのは投稿者の女性である。

2: 正解

問2

下線部の前の段落で、親が子どもに対して厳しい態度をとり、時には子どもを追いつけてしまうことが書かれており、筆者もその内容に共感している。しかし、一方で、[親は][子どもに]食べて寝て遊んでばかりいられては困るのである。

- 1: 母親が子どもを叱らないとは書かれていない。
2: 母親が家事をしないとは書かれていない。
3: 正解
4: 体に悪いことではなく、「自立した大人」になれるかが心配である。

問3

段落ごとに内容をつかむ。

第1段落: ある女性が猫を飼った経験から、子どもに厳しい態度をとりすぎていたことを反省したという投稿を紹介している。

第2段落: 筆者がそれを読んで考えたことである。相手に対して、「本人のため」と思ってとる厳しい態度が、相手を必要以上に追いつめ、最低限の「自信」まで奪ってしまうというのが重要な点である。

第3段落: 遊んでばかりでも困るが、元気でいてくれればそれでいい。

- 1: 自分の将来のために相手に期待をするのではない。
2: 子どもにも優しく接するとは書かれていない。
3: 子どもに厳しく接するのがりっぱだとは書かれていない。
4: 正解

練習54

若者が政治的な活動をする理由について書かれた文章である。

問1

下線部の前を見ると、対比(「地域共同体の力が強かった時代=昔」と「今」)がある。昔は地域の人との関わりを強制された→自分からは関わりを求めなかった。今は強制されない→自分から求める

- 1: 若者の答えに驚くかどうかについてではない。
2: 正解
3: 関わる必要があるとは書かれていない。
4: 政治的な活動がしやすくなったとは書かれていない。

問2

下線部の文を見ると、「…ボランティア活動をする中で政治に出会い…」とある。「その活動」とは政治活動を指す。

- 1: 正解
2: 政治家としてではない。
3: 政治家として活動するのではない。また、「その活動」とはボランティア活動ではない。
4: 「その活動」とはボランティア活動ではなく、好きになったとも書かれてはいない。

問3

疑問提示文「彼らはどんな動機で政治活動を始めたのだろうか」の答えが筆者の主張である。段落ごとの内容をつかむ。

第1~3段落: ほかの人との関わりを求めることや、趣味やボランティア活動の延長から政治活動を始めた人が多い。

第4段落: 就職先として政治活動を選んだというケースもある。

- 1: 筆者は若者の政治活動を趣味の延長に過ぎないと低く見ているわけではない。
2: 政治活動で自己実現したほうがいいとは書かれていない。
3: 政治活動に目を向けるべきだとは書かれていない。

4: 正解 (生きがいや就職先を求めて=動機)

練習 55

熱伝導率について書かれた文章である。

問 1

下線部の文の省略部分を探す。

「[Aを]あまり意識していないだけなのです。」→[Aを]が省略されている。

「A」=「同じ温度なのに暖かく感じたり、すごく冷たく感じたりすること」である。

- 1: 何度なのかを意識するとは書かれていない。
2: 同じ温度という条件なので、温度が変化するのではない。
3: 正解
4: 冷たく感じるだけではない。

問 2

「これに比べて空気というのはなかなか熱が伝わりにくいのです。」

前のほうを見て、空気より熱が伝わりやすいものを探す。

- 2: 正解 (水に比べて空気というのはなかなか熱が伝わりにくい)

問 3

「20°Cの空気の中に入ればそれほど寒くも暖かくも感じない、」

前の文を見て理由の表現「ですから」に注目する。

「空気というのはなかなか熱が伝わりにくいのです。…たとえば…。ですから…」20°Cの空気の中

に入ればそれほど寒くも暖かくも感じない、ちょうどいい温度なのです。」

- 1: 住宅の話は、単なる例である。
2: 服の重ね着は、単なる例である。
3: 空気は熱が伝わりにくいと書かれている。
4: 正解

練習 56

大学進学について書かれた文章である。

問 1

下線部の文の前後を見て「これ」の指しているものを探す。

前に、大学で「何を学ぶのか、そこでどんなことを身につけるのか」という意識がかなり希薄…大学

を出てから…大学時代にもっと勉強しておけばよかったと後悔…」と書かれている。つまり、学べ

る在学中には学ばず、卒業後に気づくのがもったいないということである。

1: 正解

2: 大学の勉強が合わないとは書かれていない。

3: 卒業生が大学に入り直すことは書かれていない。

4: 在学中の学生が、後悔している卒業生の姿を見ることは書かれていない。

問 2

下線部の前を見る。「君たち教師の責任じゃないか、というお叱り」に対しての反省なので、反省

するのは「大学の教師」である。

2: 正解

問 3

問いと文章全体を見る。

問いの大学進学についての提案とは、進学のプロセスを変えて、高校から直接大学へ進学するのを

禁止し、いったん社会に出て働くという提案(第2段落)である。

理由を探す。

大学では学ぶ意識が薄く、大学を出てから後悔する人が多い(第3段落)、「大学生がなかなかやる

気を持ってない」(第4段落)という現状がある。それを変えるために、「実社会で実際の仕事などを

経験」(第5段落)してから進学するというプロセスを提案している。

- 1: 大学進学者の数については書かれていない。
2: 大学の授業の内容については書かれていない。
3: 正解
4: 大学に入ってからではなく「大学を出てから」後悔すると書かれている。

練習 57

物を買うことについて書かれた文章である。

問 1

下線部の前を見ると、「必要のないものにお金を遣うなんて…が、それでも人間の精神のバランス

をとるために費用をかけたと思えば、それはそれでいい」と書かれている。

「それはそれで」の「それは」が指すのは、「必要のないものにお金を遣う」ことである。

- 1: 必要なものを買うのではない。
2: いやなことがあったために、買い物をするのはいいと書いてあるが、いやなこと自体があつてもいいわけではない。
3: むしゃくしゃした気分を抑えなくてもいいとは書かれていない。

4: 正解

問2

指示語「②それ」の前を見る。

「②それ」＝「お金のことで苦労し、血と汗を流している(＝お金がない)人ほど、どういものか無駄遣いすることがある」

1: 正解

問3

段落ごとに内容をつかむ。「～気がする」「～んじゃないでしょうか」などの主張表現に注目する。

第1～2段落: 必要以外の物を買うことは、一般にはよく思われていないが、精神のバランスをとるためと思えば、構わないのではないか。

第3段落: 人間はずっとお金に苦労し、ふり回されている。

第4段落: 無駄遣いはお金に対する人間性のささやかな反抗と言える。

1: バランスをとったほうが良いとは書かれていない。

2: 遣いすぎに注意すべきだとは書かれていない。

3: 正解(お金より自分のほうが主役だ＝お金に対する反抗)

4: 買い物にもっとエネルギーを注ぎたいとは書かれていない。

練習58

ウォークトーカー(＝携帯用無線電話機)と携帯電話について書かれた文章である。

問1

下線部の文を見る。

「①それでも近所で遊ぶには十分だった。」

下線部の前を見る。ウォークトーカーは「子供用に安っぽくできていて、通じる範囲はせいぜい百五十メートル」であるが、それでもいいということである。

1: ウォークトーカーがだれのものかは近所で遊ぶことと関係がない。

2: ウォークトーカーの形は近所で遊ぶことと関係がない。

3: ウォークトーカーで会話をして遊ぶと書かれている。

4: 正解(機能が良くない＝遠くにいて人と話せない)

問2

下線部の文を見る。

「②「いま電車」という言葉を何度耳にしたことか。」

下線部の前を見る。

「東京の街を歩いていると、携帯電話の会話の断片が…聞こえてくる。」その一つが、車内で聞く「いま電車」という言葉である。

「車内(＝電車の中)」で「いま電車(＝現在位置の確認)」と言うのを耳にした(＝聞いた)のは、筆者である。

1: 正解

2: 筆者にかかってきた電話ではない。

3: 筆者が相手に「いま電車(の中ですか)」と質問しているのではない。

4: ダググと話したのは子供の頃である。

問3

段落ごとに内容をわかむ。

第1～2段落: 子供時代にウォークトーカーで話をした。

第3段落: ウォークトーカーで会話できるのは衝撃的だったが、結局お互いの顔を見ながらしゃべったほうが楽しかった。

第4段落: 今、東京の街でも携帯電話の会話が聞こえるが、現在位置の確認が多い。

第5～6段落: 筆者の主張。携帯電話には、ウォークトーカーで子供の頃やったような現在位置の確認以上の意味はないように見える。携帯電話での他人の会話を聞かされるのも不愉快だ。だから、ケータイは持たない。

1: ウォークトーカーではなく、携帯電話についての話である。

2: 使われ方が全く違うとは書かれていない。

3: ウォークトーカーさえあればとは書かれていない。

4: 正解

練習59

親子の「対話」のための準備について書かれた文章である。

問1

「心の準備」とは、「徹底して相手の話を聴こうと覚悟すること」であるが、下線部の後に「実は、これ(＝心の準備)ができていない人が多い」とある。さらに次の段落に、「多くの親は、「対話」すると言いながら相互的な話し合いにならず、一方的に言い立てる場合が多い」とある。これが、心の準備をしないで対話をした場合の結果である。

1: 子どもに落ち着きがなく、家族を避けるのは、話し合いをする理由で、結果ではない。

2: 正解

3: 心の準備をしないせいで、話し合いが長引くとは書かれていない。

4：親が子どもの将来を一方的に決めようとしているとは書かれていない。

問2

下線部の前を見ると、「どんなことを話しても大丈夫というリラックスした心のあり方を大人が持っていないと、口で言うだけでは意味がない」と書かれている。下線部はこの部分の言い換えである。

- 1：正解
- 2：子どもに何でも話させるような対話ではなく、子どもが話せなくなるような対話である。
- 3：相手が自由に言ったことに反対するとは書かれていない。
- 4：子どもを安心させるのではなく、緊張させるような対話を指す。

問3

段落ごとに内容をつかむ。「私は思っている」「必要である」「～のは駄目である」などの主張表現に注目する。

第1段落：何ごとにも準備が必要である。

第2～3段落：準備なしに大切な対話に臨み、失敗することがある。

第4段落：大切な話し合いの結果には、子どもや家族の将来がかかっている。

第5段落：対話のために親は体調を整えることと、心の準備をすることが必要である。

第6～7段落：心の準備とは親が徹底して相手の話を聴こうと覚悟することだが、難しい。

第8～9段落：大人は集中するとともにリラックスした心のあり方で行なければならない。

第10段落：一生の間に何度か家族の間にこのような対話が必要である。

- 1：親が自分の気持ちを十分に話すための準備ではない。子どもの話を聴こうとする準備をしなければならない。
- 2：重要な対話をするべきだということではなく、親が徹底して子どもの話を聴くべきだということだが、筆者の最も言いたいことである。
- 3：親と子のそれぞれが心の準備をするのではなく、親が子の話を聴こうと心の準備をするべきだと書かれている。
- 4：正解

練習60

デパートの大食堂について書かれた文章である。

問1

下線部の文の前を見る。

昔の大食堂では、「ひと家族の注文したものが一度に出てくることはまずない(=ほとんどない)。」

しかし、今日では一度に出てこないことのほうが多くなった(=非常に少ない)と書かれている。つまり、今日のサービスには注文したものが一度に出てくることも含まれる。

1：正解

問2

問いと本文全体を見る。

「大食堂が消えた要因として、…消費者が質のよいサービスをもとめるようになったから」(第6段落)とある。大食堂のサービスの問題点を見る(第1～2、4～5段落)。

- 1：正解
- 2：大食堂でも、子どもと高齢者がいる家族づれが好きなものを選べた。
- 3：大食堂はセルフサービスで食べるシステムではない。
- 4：見本があるので、大食堂でもどのような料理か目で見て確認してから注文できた。

問3

段落ごとに内容をつかむ。

第1段落：デパートの大食堂はほとんどなくなったが、理由はサービスの質である。

第2～5段落：大食堂のサービスの悪さの具体例。

第6段落：第1段落の繰り返し。

第7～8段落：まともなサービスのない大食堂をなつかしむ気持ちにはならない。

- 1：筆者はデパートの大食堂で食事することはごめんこうむる(=嫌だと断る)と書いている。
- 2：正解
- 3：騒がしい場所より静かな場所でゆっくり食べたいとは書かれていない。
- 4：ファミリーレストランのほうがサービスがいいと書かれているが、それが大食堂のおかげとは書かれていない。

練習61

バイオリンの演奏家である筆者がホテルで体験したことについて書いた文章である。

問1

バイオリンのBGMを聞いて「私のCDの音だ」と気づき(第2段落)、「はじめは自分の演奏に似ているなあと思いつつ…」(第6段落)とあることから、筆者の職業はバイオリンの演奏家だとわかる。

1：正解

問2

どのようなサービスか、下線部の前を見る。ホテルの従業員は、サービスのつもりで筆者の過去の

CDをBGMとして流し、笑顔を見せている。しかし、筆者自身は昔の自分のCDを聞かされて「稚拙な過去の自分を突き付けられたような敗北感」を味わっているのである。

- 1：ホテルの従業員の笑顔は好意の笑顔で、筆者を笑うものではない。
- 2：正解
- 3：実際に言ったのではなく、まるでそう言っているような笑顔を見せただけである。
- 4：私も笑っていないとはいけないとは書かれていない。

問3

段落ごとに内容をつかむ。

第1～13段落：筆者は過去のCDをBGMとして流され、無理矢理聞かされるという経験を、リラックスできなかった。

第14段落：筆者は「過剰なサービスは客を苦しめる。良いホテルは適度な距離感を心得ている。その距離感こそがよい人間関係を作り出す。」と述べている。

「適度な距離感がよい人間関係を作り出す」というのが筆者の主張。

- 1：泊まる場所について述べたいわけではない。
- 2：従業員が満面の笑みを浮かべ、いい音楽が聞こえてくるのが筆者にとって良いホテルだと書かれていない。過剰なサービスである。
- 3：過去の自分の演奏を聞いて自分の進歩に気づいたのではなく、リラックスできなかったと書かれている。
- 4：正解

練習62

A 朝読についての新聞記事

B 朝読を実施している学校からの報告

問1

AとBの情報を統合する問題。朝読の説明に注目して本文を読む。朝読とは何かについての説明とそれ以外の説明を区別する。

- 1：正解
- 2：2002年に始まったのは、ある学校での朝読である。
- 3：読書週間だけの活動ではない。
- 4：Bはどのような姿勢で読んでも構わないと言っているが、すすめているわけではない。

問2

AとBの情報を比較する問題。調査結果を報告しているか、朝読を実施した効果と感想を述べてい

るかを見る。Aは数字や割合を出していることから調査結果を報告した文章であるとわかる。

Bは第2段落で効果を述べている。「考えています」などと書かれていることから、感想を述べた文章であることがわかる。

- 3：正解

練習63

AとBはほめることについて書かれた文章。

問1

AとBの情報を比較する問題。選択肢を読む。AとBが「ほめる」ことをすすめているか、ほめることで相手を変えなければならないと考えているかに注目する。

- 1：正解
- 2：Bには、ほめることで相手を変えなければならないとは書かれていない。
- 3：Aには、ほめることで相手を変えなければならないとは書かれていない。ほめることは相手を変えるほどの力を持っていると書かれている。
- 4：AにもBにもほめることで相手を変えなければならないとは書かれていない。

問2

AとBの情報を比較する問題。「ほめること」が「ほめる人」への効果か、「ほめられる人」への効果かを見る。

- A ほめ言葉は相手(ほめられる人)の行動を変えるほど効果的であると述べている。つまり、ほめられる人への効果について述べられている。
- B ほめ言葉はほめる人自身の人生を豊かにすると述べている。つまり、ほめる人への効果について述べられている。

- 1：Aは「ほめる人」への効果が書かれていない。Bは「ほめられる人」への効果が書かれていない。
- 2：正解
- 3：Aは「ほめる人」への効果が書かれていない。
- 4：Bは「ほめられる人」への効果が書かれていない。

練習64

AとBとCはすべて、山田さんからマリアさんへのメールの文章である。

問1

AとBとCから山田さんの最近の様子が書かれている部分を探す。

A「僕もこの4月から、新しい部署に配属されました。」

- 1：新しい会社に移ったのではない。

- 2: 今までと同じ仕事ではない。
 3: 正解
 4: 今の仕事を辞めようとは思っていない。

問2

AとBとCの内容を統合して、最終的に曜日、場所、だれがレストランを予約するかを読み取る。
 B 「では、木曜日にしましょう。以前…行ったレストラン「アローロ」でいいですか。…予約しておきます。」
 C 「予約がいつぱいで取れませんでした。…どこかいいレストランを予約してもらってもいいですか。」

- 1: アローロに行くのではない。
 2: 金曜日ではない。
 3: 金曜日ではない。予約するのは山田さんではない。
 4: 正解

練習 65

Aはクオンさんから田村さんへのメール。
 Bは田村さんの上司からクオンさんへのメール。

問1

AとBの情報を読み取る問題

- 1: A 正しい。
 B 手紙ではなく、お詫びに何うと言っている。
 2: A 理由は聞いていない。
 B 理由を知らせている。
 3: 正解
 4: A 納期の連絡がないのではなく、納期を過ぎても届いていないと言っている。
 B 正しい。

問2

AとBから納期が遅れた理由を読み取る。
 B 「原因を確認いたしましたところ、運送会社への納期の連絡が不十分だったということがわかりました。私どもの不手際で、…」

- 1: イダ機械工業が運送会社に納期を伝えたのではない。
 2: 正解

- 3: 運送会社がEW2000-Bを届け忘れたとは書かれていない。
 4: トーホー部品工業とイダ機械工業の間の連絡が間違っただけとは書かれていない。

練習 66

「やまゆりネット」という施設予約システムの利用案内

問1

問い: 市内に住んではいないが勤めている人と登録に必要なものは?
 「利用者登録について」を見る。

「やまゆり市に住んではいない(=在住ではない)」「市内の会社に勤めている(=在勤)」を探す。
 「●ご本人の…住所・氏名・生年月日が確認できるものをお持ちください。やまゆり市在住である必要はありません。」

「●やまゆり市在勤・在学の方は、社員証・在勤証明書・学生証など通勤・通学先の確認ができるものをお持ちください。やまゆり市民料金で施設がご利用いただけます。(名刺は通勤先を確認するものとして使用できません。)」

- 1: 住所・氏名・生年月日が確認できるものだけではやまゆり市民と同じ料金では利用できない。
 2: 社員証か在勤証明書だけでは登録ができない。
 3: 名刺は通勤先を確認するものにはならない。
 4: 正解

問2

問い: 2009年6月1日に利用登録をした。登録料なしで更新するには?
 選択肢: 5月31日まで? 6月になってから? 窓口で? インターネットで?

「《注意》(4)」を見る。小さい字に注意する。
 「受付窓口で更新の手続きをしてください。」
 「*有効期限(=2012年5月31日)が過ぎますと、再登録に500円」

- 1: インターネットでは更新できない。
 2: 6月になってからでは、登録料がかかる。インターネットでは更新できない。
 3: 正解
 4: 6月になってからでは、登録料がかかる。

練習 67

「苗木・植樹」プレゼントのお知らせ

問1

問い: 応募方法は?

「応募方法」を見る。

- 1：応募はがきをホームページからダウンロードするとは書かれていない。
- 2：正解
- 3：応募するとき苗木の種類を書くとは書かれていない。
- 4：エコ太陽の問い合わせ先にメールするのではない。

問2

問：プレゼントに当たった。何ができる？

「苗木・植樹当選券の使い方」を見る。小さい字に注目する。

「(1)お客様自身で植樹なさる場合 木の種類を以下の4つの中から1つ選んで、当選券にご記入の上、弊社までご返送ください。ご希望の苗木をお客様の指定された日、指定された場所にお届けいたします。」

「(2)市民団体の植樹活動への寄附 …*植樹する場所、木の種類は「植樹会」で決めさせていただきます」

- 1：正解
- 2：木は2種類選べない。
- 3：植樹会に寄附する場合、木を植える場所は選べない。
- 4：植樹会に寄附する場合、木の種類は選べない。

練習68

アサガオの育て方が書いてある説明書である。

問1

問：正しい水やりは？

選択肢：種まき、つぼみ、花の段階での水やりのちがいは？ 毎日？ 土が乾いてから？

キーワード「水やり」「水」を本文から探す。

「種まき～芽が出るまで…毎日水やりをします。」

「つぼみがつくまでは、土が乾いてから、水をたっぷりやるようにします。」

「つぼみがふくらんできたら、毎日水やりをしましょう。」

「花が咲いている間は、水を毎日与えます。」

- 1：つぼみがつくまでは土が乾いてから水をやる。花が咲いてからは水を毎日やる。
- 2：種をまいた後は、毎日水をやる。つぼみがつくまでは土が乾いてから水をたっぷりやる。
- 3：正解
- 4：種をまいた後は、毎日水をやる。つぼみがつくまでは土が乾いてから水をやればよいが、つぼみがふくらんでは毎日水をやる。

問2

問：アサガオの芽が出た後の植えかえ方は？

選択肢：肥料、土を入れる順番は？ 根に付いた土を落とす？ 落とさない？

「芽が出たら」を見る。

順番に注目する。太い字に注目する。

「新しい植木鉢の底に肥料を入れておきます。」

土を少し入れたところで、アサガオを移します。

アサガオを鉢から抜くとき、根に付いた土を落とさないように注意しましょう。」

- 1：正解
- 2：肥料を入れてから土を入れる。根に付いた土は落とさない。
- 3：肥料を入れてから土を入れて植える。
- 4：根に付いた土は落とさない。

練習69

東京地区の大学のオープンキャンパスの日程表

問1

問：経済学部のオープンキャンパスがいちばん多く開かれている日はいつ？

選択肢、7/31(土)、8/21(土)、8/22(日)、8/28(土)の中から問いの条件に合うものを探す。

- 1：みやこ経済大学だけ
- 2：正解(みやこ経済大学 一本木大学 白山大学)
- 3：ひがし大学だけ
- 4：みやこ経済大学 一本木大学

問2

問：8月20日以降に工学部のオープンキャンパスに行く。したほうがいいことは？

選択肢、ひがし大学、にしき大学、一本木大学、早田大学の中から問いの条件に合うものを探す。

- 1：ひがし大学の入試問題解説が実施される日程①と②は、すでに過ぎている。
- 2：にしき大学に工学部はない。
- 3：正解
- 4：早田大学の入試説明会は予約不要。

練習70

学生寮の一覧＝学生寮を探している人のための情報

問1

問1：経済学部1年の男子学生が4年間住んでいられる寮はいくつ？

「在寮年限(=何年間寮にいられるか)」を見る。

4年はかえで寮、清風寮、大空寮、青梅寮

「入寮対象学生」を見る。

学部1年男子は大空寮

1：正解

問2

問1：医学部の男子学生が、3年生～6年生までいられる一人部屋で、いちばん安いのは？

選択肢、あさひ寮、白波寮、清風寮、大空寮の中から問いの条件に合うものを探す。

「入寮対象学生」「在寮年限」「部屋・設備」「料金」を見る。

1：1・2年生しか入れない。2年間しか入れられない。

2：正解

3：いちばん安い寮ではない。

4：一人部屋ではない。

模擬試験

問題1

1

仕事人間について書かれた文章である。

主張表現に注目する。主張表現は、「それはそれで素晴らしいことではないだろうか」。

「それ」=その人が会社とともに生きたいと思うこと

船長はその人、船は会社の比喻。つまり、筆者は、人生を会社にささげるのも素晴らしい、幸せだと

1：仕事しかできない人生は困るというのは筆者の意見ではない。

2：自分の時間を会社のために使うのが、最も幸せとは書かれていない。

3：船長が船とともに生きるように、会社とともに生きるのは素晴らしいと書いてあり、二つを比較して

4：正解

問題2

2

問題を抱えた状態について書かれた文章である。

「問題を抱えた状態」とはどんなことか、「なにかものを作っているとき」の例を通して述べている。人は問題を抱えた状態を苦しいと思うだけでなく、楽しんでる。

1：正解

2：問題を自分の力で変えたり、改良したりして夢中になっている状態を楽しんでいるのであって、解決できたことを喜ぶのではない。

3：完成を楽しみにしているのではなく、問題が解決されずにとどまっている状態を楽しんでいる。

4：ほかに夢中になれることがある場合については書かれていない。

問題3

3

脳の使い方について書かれた文章である。

対比(体の疲れと脳の疲れ)に注目する。体は同じ姿勢で同じ筋肉に負担をかけることで疲れやすくなるが、脳も同じように、同じ状態で同じことを考え続けると疲れやすいと書かれている。

従って、上のようなことをしないようにすれば、脳が疲れにくく、効果的に使える。

1：部屋で一人でずっと頭を使っていると、同じ状態が続くので効果的ではない。

2：正解

3：さまざまなことに脳を使わないということは、同じ状態が続くので、脳も疲れやすく、効果的で

4：姿勢を変えると、体は疲れにくいですが、一つのことを考え続けると、脳が疲れやすく、効果的で

問題4

4

ある町の防犯パトロールについて書かれた文章である。

文章全体を見て、原因・理由の表現(「これにより」「その結果」「こうして」)に注目する。

町のパトロールを始めた → あいさつを交わすようになり、仲間意識を持つようになった

→ 防犯意識の高まった地域の雰囲気犯罪者にとって居心地の悪いものになった

つまり、住民同士が仲間意識を持ったことで、犯罪者には居心地が悪くなったことが原因である。

1：犯罪者を捕まえる活動はしていない。

2：正解

3：町の住民が犯罪者になるとは書かれていない。

4：昼間留守がちな住民が中心となったとは書かれていない。

問題5

5

駅に貼ってあるお知らせである。

タイトルを選ぶ問題なので、このお知らせの目的を探す。

「～に伴いまして」の後を見る。

「この工事に伴いまして、8月27日(土)より、駅南側の階段が使用なくなります。」

1：お礼は前置きである。

2：駅の改良工事は、階段が使用なくなる理由である。

3：正解

4：南側に設置されるのは、エスカレーターである。

問題6

時間の流れを区切るという日本的作法について書かれた文章である。

6

下線部の文の後のほうを見ると、「しかし後で考えて、必要だったのは、終わりの言葉だったとわかりました。」とある。終わりの言葉がなかったことが、出席者から反応がなかった理由である。

1：必要だったのは終わりの言葉であり、発表の論証が理解できなかったからとは書かれていない。

2：正解

3：一本締めや三本締めは、パーティーやスピーチのときの例である。

4：周りの人が皆おとなしく待っていることは、出席者からはなんの反応もないことの言い換えである。

7

下線部の文の前を見ると、「そういう習慣」とは、終わりの言葉や一本締めなどで「つねに時間の流れを区切ってリズムをつくる」ことだとわかる。従って、はっきりした句点とは、終わりの言葉や行動を指す。

1：リズムの正確さについては書かれていない。

2：時間どおりに物事を始めたり終えたりすることではなく、区切ることである。

3：正解

4：作法のことではなく、時間を区切ることである。

8

段落ごとに内容をつかむ。

第1段落：筆者は、研究発表で終わりの言葉を言わなかったため、反応がなかったという経験をした。

第2段落：時間の流れを区切らないと、日本人は不安になるようである。

「日本人ははっきりした句点がないと、すぐ不安になる人たちに見えます。」(最後の文)が筆者の主張である。

1：時間に正確であるかどうかについては、書かれていない。

2：発表で「以上です」と言うのは例で、それがこの文章の中心ではない。

3：発表者が結論を述べても聞き手が反応を示さないのを、困ったものだ(=非常に困る)と嘆いているわけではない。

4：正解

問題7

母親と息子のやり取りについて書かれた文章である。

9

母親が「早く食べて学校へ行きなさい」と言ったのに対して、息子は反抗的な態度をとるが、母親の思いがけない反応を見て、ため息をつきながらも結局素直に食卓についている。ここから反抗的な気分が薄らいだことが読み取れる。

1：ハーッとため息をついたのは、感動したためではない。

2：息子が怖がっていたとは書かれていない。

3：正解

4：素直に席にはついたが、後悔しているとは書かれていない。

10

下線部の「この受け答え」とは、息子が「うるさいな、タコ」と言ったことに対し、母親が「ハイ、タコで一すー♪」と切り返した受け答えを指す。

下線部の後のほうを見る。筆者が感心したのは、第一に、母親が「タコで一すー♪」と相手の言葉を受け止めた点、第二に、身振りをつけて歌いながら返事をした点である。

1：正解

2：甘やかさずにきちんと育てようとしているとは書かれていない。

3：息子のやりたようにやらせているわけではない。

4：息子の侮蔑の言葉を無視していない。

11

下線部の文を見る。

「このやりとりがケータイメールでなされたら、③こうはいかないでしょう。」

「こうはいかない」の「こう」は、母親が身振りよろしく歌にのせて返すと、息子がため息をつきな

がらも素直に席につくこと。

「身振りよろしく歌にのせて返した」から、息子は文字情報だけではわからない言葉以外の情報を受け取ることができたのであり、ケータイメールではそれは伝わらない。

- 1：微妙な気持ちは文字ではうまく表現されない。
- 2：時間がかかりすぎるとは書かれていない。
- 3：息子の態度ではなく、母親がそれをどう返したかが注目すべき点である。
- 4：正解

問題8

日本についての新聞記事を外国で読んで筆者が考えを述べた文章である。

12

下線部の文を見る。

なぜ「ぼく」は電車の遅れが大変なことだとわかるのか。以前その中(=日本社会)で生活していたからである。

- 1：雑貨店の前で、筆者は男の子に新聞を見せられた。
- 2：筆者はその暴動の現場にいたわけではない。
- 3：筆者は日本の暴動の新聞記事を異国で読んでいます。現場にいたわけではない。
- 4：正解

13

比喩に注目する。

遠い鏡=日本の姿を映す、日本から遠い国の新聞やニュース(筆者は今、日本から遠く離れた国にいる)

新聞では、電車が1時間くらい遅れたために暴動が起こったことを「気狂いじみた国々がある」と扱っている。

- 1：「鏡」は映すものの比喩で、新聞やニュースである。日本人の考えではない。
- 2：正解
- 3：日本の姿が映されている新聞記事を見た場所は、筆者が今いる国である。
- 4：暴動を起こした人々(=日本人)が遠い国の鏡に映っているのである。

14

段落ごとに内容をつかむ。

第1段落：外国にいる筆者は、その国の新聞に日本のことが「気狂いじみた国」として紹介されているのを知る。「ぼくにとってはあたりまえであった世界」が、ここでは、「狂気」「奇怪なも

の」として語られている。

第2段落：日本のような近代社会は、忙しさが無限に続く基本構造になっているが、筆者はそこに帰っていく。

筆者は、今いる国と日本を比べることで、異なる視点から自分の国を見ることができたのである。

- 1：この国でずっと過ごしたい気持ちになったとは書かれていない。
- 2：日本がなつかしく感じられ、帰りたい気持ちになったとは書かれていない。
- 3：正解
- 4：不思議さと狂気は、その国ではなく、日本についてのものである。筆者自身が気づいたのではなく、新聞に書かれていた。

問題9

AとBは子供がシリーズ本を読むことについて書かれた文章である。

15

AとBの情報を比較する問題である。AとBの共通点を探す。

- 1：シリーズものの内容の具体例は、Aだけにある。(3人組の少年が…などが代表的だ)
- 2：正解(A：「…シリーズ本!」という答えがよく返ってくる。親世代にも…夢中になった人がいることだろう。B：だれにとっても誘惑的な存在)
- 3：子供の年齢の例は、Bだけにある。(九歳と十歳)
- 4：大人が子供にシリーズ本を読ませたがる理由はどちらにも書かれていない。

16

子供がシリーズ本を読むことについて、AとBの意見を比較する。どのような立場かに注目して読む。

- A：「楽しい読書体験」「経験は貴重」「将来の読書習慣への第一歩」←肯定的な立場
B：「貴重な時間が、一人の作家の一つの世界に長期にわたって占領…明らかに問題です」←否定的な立場

- 1：正解

問題10

今の若者と先生との関係について書かれた文章である。

17

下線部にある「友だち親子」の親は、以前のような、明確な役割を持つ親ではなく、友達のような親のことである。

- 1：そばにいるとは書かれていない。

- 2：正解(同じような位置にいる=友だちのような)
 3：大切にしてくれるとは書かれていない。
 4：自分から遠いとは書かれていない。

18

下線部の文を見る。「私の知人の大学教員が、学生に「…先生と呼ばずに〇〇さんと呼びなさい」と言ったが、一向に②「先生」をやめてくれない、と話してくれたことがあった。」

「先生」をやめる=「先生」と呼ぶのをやめる。

だれが、だれを「先生」と呼ぶのか探す。

[学生が][私=大学教員を][先生][と呼ぶの]をやめてくれない。

4：正解

19

段落ごとに内容をまとめる。

第1～2段落：今の若者は先生のウワサ話をするなど、先生に関心を持っている。

第3～4段落：先生は自分に身近で特別な存在で、関係性がはっきりした大人である。そういう大人は多くない。

第5段落：「だれでも友だち」という関係では、若者は自分の位置づけができず、問題である。

第6段落：関係がはっきりしている先生は若者にとって安心できる存在である。

自分の位置づけをはっきりさせるためには、指導し、お手本を見せてくれる大人が必要である。しかし今その役割を担っているのは先生だけであるため、今の若者は先生への関心が高いというのが筆者の主張である。

- 1：先生は友だちのような感覚で接することができる存在だとは書かれていない。
 2：今の若者は親との関係が薄いのではなく、親と友だちのような関係である。
 3：正解
 4：先生は、若者と同じ高さの目線で教えてくれるのではなく、先生という役割を持っている大人である。

問題11

区役所のホームページに載っている小学校入学の手続きである。

20

「8月末までに青葉丘区でお子様の外国人登録を行った方」を見る。太字に注目する。

- 1：教育委員会に必要な書類を持って行って手続きをするのは、9月以降に外国人登録を行った人である。

2：教育委員会で子供の外国人登録を再度行うとは書かれていない。

3：連絡するのは青葉丘区役所ではない。

4：正解

21

問いと選択肢のキーワードを探す → 「指定校」「同じ小学校」「選択する」「許可が得られる」

2つ目の■を見る。太字に注目する。

「入学する学校は、お住まいの住所地に基^{もと}づいて教育委員会が定めています(「指定校」といいます)。

入学する小学校を自由に選択することはできません。」

- 1：正解
 2：通いたい小学校を選択することはできない。
 3：友達の子供が通っている小学校から許可を得ることはできない。
 4：双方の小学校に相談できるのは、兄、姉が別の小学校に通っている場合だけである。